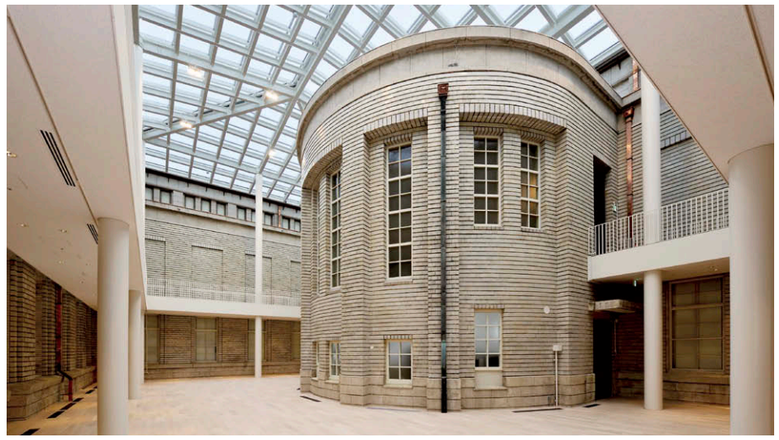
京都市京セラ美術館

京都市美術館は 2017 年から休館し、老朽化をはじめとする諸課題を解決するリニューアル工事が行われてきました。2020 年 3 月 21 日にリニューアルオープン予定の同館は「将来的に国の文化財に登録されること」を目指して、「故」と「新」を融合させ、現代の美術館として求められる機能を整備してきました。また各フロア、スペースごとに、ふさわしい照明設計が行われました。

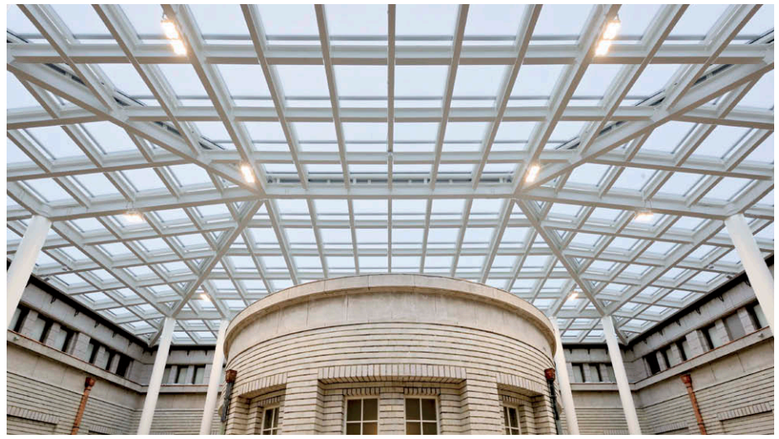
1933年の開館以来、活発な美術館活動を行ってきた京都市美術館は、2015年に策定した「京都市美術館再整備基本計画」に基づき、リニューアル準備が進められてきました。美術館正面の広場、ファサードの「ガラス・リボン」、現代アートに対応する設備を整えた「東山キューブ」、歴史的空間で美術を体感できる「本館　南回廊・北回廊」などをはじめ、非公開だった2カ所の中庭「光の広間」「天の中庭」が新設されます。

【 物件概要 】
所在地：京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 124
規模：地下 1 階地上 2 階建
施主：京都市
基本設計：青木淳建築計画事務所・西澤徹夫建築事務所 JV
実施設計：松村組
施工：建築／松村組　電気／中電工
リニューアルオープン：2020 年 3 月 21 日

2階のバルコニーから見たLED高天井器具❶による照明



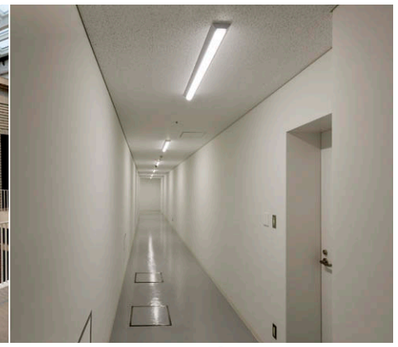
1 階フロアから半円柱型の壁面と 2 階バルコニーを望む。



1 階中央から大屋根を望む。

LED高天井器具

2階バルコニーから「光の広間」を望む。



廊下のTENQOO直付タイプ❷の照明

多機能な大空間「光の広間」に使用目的に応じた照明環境を創造。

本館内にある 2 カ所の中庭は、これまで機械置場となっていましたが、リニューアル工事では竣工当時の意匠を生かし、多機能な大空間に生まれ変わりました。北回廊の中庭「光の広間」は、半円柱型の構えの建物を囲むつくりの全面にガラスの大屋根をかけました。約 28m × 18m の 1 階フロアは光が差し込む空間として、石造りの重厚感ある雰囲気も生かし、レセプション、イベント、特別作品の展示などフレキシブルな活用が予定されています。そして天井高 16m の鉄骨部分に、700W 形水銀ランプ相当の LED 高天井器具を 10 台設置。使用目的や外光により、5 ～ 100%の調光で適切な照明環境を創ります。また軽量化により建築物への負荷を低減し、落下防止ワイヤーの装備で安全面にも配慮しています。このほか廊下、ショップ倉庫、スタッフルームなどには TENQOO シリーズを採用し省エネ性に優れた快適な照明環境を実現しています。

主な掲載器具一覧

設置場所	器　具　名（品種名）	形　名	台数	備考
館内	❶LED高天井器具 軽量タイプ（特注）	LEDJ-34001L-LD9K	10	消費電力：187.6W
	❷LEDベースライトTENQOOシリーズ40タイプ直付形W120	LEKT412693N-LS9	213	消費電力：43.0W
	塔柱・架台・避雷針		5	